

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

(仮称)中筋四丁目マンション

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配慮項目	評価点	重み係数	内 訳				
■1.「地球温暖化対策」の推進							
1.1 建物の熱負荷抑制							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 住宅性能評価における省エネルギー対策等級3の基準を満たす仕様とした。	3.0	0.08	Q1	室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	3 外皮性能
	3.0	0.43					
	3.0	0.49	LR1	エネルギー	1 建物の熱負荷抑制		
小計	3.0	0.36					
1.2 自然エネルギーの利用							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.1 自然エネルギーの直接利用	
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.2 自然エネルギーの変換利用	
小計	3.0	0.09					
1.3 設備システムの高効率化							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 設備システムの効率化を図る為、エコキュートを採用した。	4.9	1.00	LR1	エネルギー	3 設備システムの高効率化		
小計	4.9	0.18					
1.4 設備システムの効率的運用							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.0	0.06	LR1	エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング	
	4.0	0.06	LR1	エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制	
小計	4.0	0.12					
1.5 資源・マテリアル対策							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 節水型の給水器具を採用した。	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水	
	3.0	0.12	LR2	資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雑排水再利用システム導入の有無
	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用	
	4.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	5.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	
	2.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材	
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	
小計	3.5	0.26					
1.6 ライフサイクルCO2排出率							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 可能な限りCO2の排出を削減する。	4.8	1.00	LR3	敷地外環境	1 地球温暖化への配慮		
小計	4.8	0.11					
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	3.7	0.72					
■2.「ヒートアイランド対策」の推進							
2.1 温熱環境の向上							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 オール電化とすることで燃焼機器をなくし、大気汚染物質を排出しない。又、敷地内に出来る限り植栽を施した。	1.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出		
	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上	
	2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善	
小計	1.8	0.96					
2.2 交通負荷抑制							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 全住戸分の駐車台数の確保している。	5.0	1.00	LR3	敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制
小計	5.0	0.04					
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価	1.9	0.15					
■3.「長寿命化対策」の推進							
3.1 耐用性の向上							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 コンクリート躯体の劣化については住宅性能評価の劣化対策等級3の基準を満たしている。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	1 耐震性
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	2 免震・制振性能
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔
	5.0	0.06	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.5	0.47					
3.2 設備の更新性							
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。 躯体に影響を及ぼさない範囲で設備のメンテナンス、更新が可能なレベルを確保する。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性
	4.0	0.17	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給水配管の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペース
小計	3.2	0.53					
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)	3.3	0.13					
重点項目の総平均(上記3項目)	3.3						